

# 柳井市観光振興ビジョン評価報告概要

令和8年3月 柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議資料より

## ◆目標値の達成状況

◎目標値と実績値 [令和7年度]

指 標	実績値	目標値	達成率	調査人数
来訪者満足度指数	56.8%	66.7%	85.1%	96人
市民・事業者満足度指数	24.6%	50.0%	49.2%	94人

目標値の達成状況は、柳井市観光アンケート調査により上表のとおりとなっている。

これによると、来訪者満足度指数は56.8%、市民・事業者満足度指数は24.6%となっており、いずれも目標値を達成していない。

内訳としては、来訪者は、景観や町並みや駐車場の整備状況への満足度が高く、移動手段や飲食施設に不満が見られ、市民・事業者は、イベントや観光コンテンツへの満足度が高く、交通網や情報発信、観光施策などを主に多岐にわたり不満が多くあった。

## ◆実施状況の評価と評価分類

柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議において、平成31年度より検証を行っており10年間の実績を元に、本ビジョンに掲載している5つのパッケージの具体的な行動計画に係る実施状況について分析し、今後の方向性を踏まえ以下の3つに分類した。

- A：現状のまま事業を実施することが適当
- B：事業の内容や進め方の改善が必要
- C：事業の縮小・廃止を検討

パッケージ	(1)「百話百景」創作プラン
パッケージ評価 C	<p>【柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・百話百景を誘客資源にするのは困難であり、観光施策として百話の創作に固執することは避けた方がよいと、この会議で当初から指摘していた。</li> <li>・ストーリーを作って、そこに人が集まってくるのかということは疑問であった。</li> <li>・このパッケージの実現に人的エネルギーを取られたことで他のパッケージの事業実施に影響が出たと思われる。</li> <li>・各地区で創作が行われている動きや逸話の掘り起こしには意味があり継続すべきである。</li> <li>・推進マネジメント組織の体制づくりは今後も何らかの形で取り組んでいくべきである。</li> </ul>

パッケージ	(2)「担い手確保」抜本改革プラン
パッケージ評価 B	<p>【柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳井金魚ちょうちんが各地で広まっていることは実感できている。</li> <li>・柳井金魚ちょうちんに幼少時から触れることは貴重な機会であるため継続する。</li> <li>・観光地教育や行政の資質の向上はビジョンに掲げなくとも本来やるべきことである。</li> <li>・施策展開や組織作りの役割分担はビジョンの初期段階で行うべきであった。</li> <li>・観光協会の統合と法人化は早期にメリット・デメリットの整理を行って検討すべきであった。</li> <li>・柳井市観光協会としては法人化に向けての勉強会を行ってきたが、法人化はいったん立ち止まってもいいのではないかと。事務局体制等を含め身の丈にあった対応を考えた方がよい。</li> <li>・高校再編が行われ当面は市内の学生が多い状況があるので、観光協会内に地域の部活動のような部会も検討する。</li> <li>・柳井市観光推進機構の設立は、観光協会の統合法人化の検討が長引くのであれば、その間、市が中心を担い関係者が集まって代替的に進めるべきだった。</li> </ul>

パッケージ	(3)「観光力結集施設」設営プラン
パッケージ評価 B	<p>【柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「白壁の町並み」、「麗都路通り」、「柳井川」のエリア化はビジョンのほとんどの期間において、展開方法に具体策がなく進展を見なかった。重要伝統的建造物群保存地区でこれほど駅に近い所は他になく、今後も柳井駅を含むエリア化の実現に向けて取り組む必要がある。</li> <li>・みどりが丘図書館の建設によって、ビジョンが予定していなかったゾーンからの回遊が生まれ、観光客誘致にも効果があった。魅力的な施設であり、話題性があるうちに追加施策を講じるべきである。</li> <li>・シークレットミュージアムは田舎の町おこしと思ったら全然違って素晴らしかったというコメントがSNSで発信されていた。市が首都圏や関西圏でPRした成果として東京や京都からの来訪や問い合わせが増えていく。</li> <li>・大畠地区には魅力的な食事処が多くあり、柳井市街とのニーズの補完が期待できるため、一連の動線になるようにサポートし合いたい。</li> </ul>

パッケージ	(4)「新たな人の流れ」創出プラン
パッケージ評価 B	<p>【柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのステージ連携会議は今年度まだ行われていない。ビジョンが求めるレベルに達しておらず、一層の情報交換や対策が必要である。</li> <li>・お試し住宅での体験者が景色を気に入って柳井に来られた人もいる。釣りや農業体験のニーズもあり、これらを繋げていくことも必要である。</li> <li>・白壁の町並み周辺に出店を考える人が増えている。町中の空き家の情報をアーカイブ化し関係者が共有する仕組みを構築することが必要である。</li> <li>・人、店舗、子どもを増やすことは重要な課題であり引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>

パッケージ	必須の観光インフラ整備戦略
パッケージ評価 B	<p>【柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ観光は誘客や交流人口の増加に有効であり、コンセプトを明確にし、取組内容を整理・充実させてアピールすべきである。バトミントンやバスケットボール、卓球、野球などの歴史や著名な選手などの掘り起こしや物語化、顕在化にも取り組むべきで、それこそがストーリー観光にも繋がっていくものと思われる。</li> <li>・観光の視点では、県外から見れば、柳井広域は一つのエリアとして認識されている。1市4町が一体の観光ゾーンとして、サポートし合える体制を整え、共同施策を講じる必要がある。</li> </ul>

